

令和7年度 福井県 英語教育改善プラン

目標

- ・小中連携を意識した言語活動を通して指導する授業づくりの推進
- ・言語活動の充実に向けた授業づくりにおける学習者用デジタル教科書等のICT機器の活用推進

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①「言語活動を通した」外国語活動・外国語の授業づくりの推進が見られる。

②学習者用デジタル教科書について、授業での活用が進んできている。

①「英語の勉強は好きですか」に肯定的ではない回答をした児童が見られる。
(R6全国学力・学習状況調査 25.6%)

②学習者用デジタル教科書の活用頻度に差が見られる。

2. 要因分析

①②小学校外国語担当教員研修や学校訪問を通して授業支援事業において、具体的な「言語活動」や学習者用デジタル教科書等の活用事例の紹介や指導案を検討したり、共有したりすることができた。

①「英語の授業がよく分かる」に肯定的でない回答をしている児童見られる。
(R6全国学力・学習状況調査 18.2%)

②学習者用デジタル教科書の意義や有用性について理解が不十分な学校があると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②小学校外国語担当教員対象研修の実施

小学校外国語担当教員対象研修を行う。小中連携を意識した言語活動を通して指導する授業づくりや、CAN-DOリスト形式の学習到達目標設定とその活用について研修し、具体例を示したり、実践事例を紹介したりするなどして、指導例や好事例の周知に努める。

③新規採用試験における外部検定試験の加点

採用試験説明会等での周知を通して、外国語を指導できる小学校教員の確保に努める。

①授業づくり支援による授業改善の推進

児童が自分の気持ちや考えを「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動を通じて、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成し、発達段階に応じて「読むこと」「書くこと」を加えていく系統的で「深い学び」を実現するための授業づくりや、学習者用デジタル教科書等のICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を図る授業づくりを県の指導主事が学校訪問を通して支援し、県教育委員会HPで好事例を共有する。

②学習者用デジタル教科書等のICT機器の活用推進

言語活動の充実に向けた授業づくりにおける学習者用デジタル教科書等のICT機器活用推進のため、学習者用デジタル教科書等の有用性について教員が理解を深め活用を推進する。

令和7年度 福井県 英語教育改善プラン

目標

- ・小中連携を意識した言語活動を通して指導する授業づくりの推進
- ・言語活動の充実に向けた授業づくりにおける学習者用デジタル教科書等のICT機器の活用推進

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 79.8% ⇒ R7 : 85%)

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①ICT機器を50%以上の授業で活用した割合が増加。
(学習者用デジタル教科書の活用 R5 24.6%⇒R6 42.0%)
- ②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、即興で自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動が増加。
(R5:67.5%⇒R6:74.8%)

未だ改善が必要な点

- ①中学生の英語力に低下が見られる。
(R5 : 83.8%⇒R6 : 79.8%)
- ②小中連携について、実施が不十分な地区が見られる。
(参考 : R5:71.2%)
- ③家庭学習でのICT機器の活用が不十分である。
(「全く行われていない」 R6 :27.5%)

2. 要因分析

- ①1人1台端末の活用(学習者用デジタル教科書の活用含む)について、研修や研究会等を通して、具体的な活用事例の周知や情報交換ができたことにより、活用推進につながった。
- ②研修および「英語教育推進事業」での指導主事による授業支援により、「言語活動」を通じた指導についての理解と実践が進んだ。

- ①中学生の英語力について、上位層が増加する一方で、英語を苦手とする生徒も増加している。
- ②小中連携の取組について、地域間の差が見られる。
- ③「個別最適な学び」の充実を目指し、授業と家庭学習がつながる学習課題の設定が不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①外部検定試験の全額補助(中学3年)

結果分析を活かした事後研修と授業づくり研修実施

外部検定試験(GTEC)の全額補助を実施し、その結果分析資料等をもとに、生徒の学習改善と教師の指導改善のため、指導の好事例や改善点について、共有または検証・研究する機会を設ける。動画研修と参集型研修を実施し、各地区や学校ごとの授業改善について、教員が主体的に具体的な方策を考え、学ぶ機会とする。

①授業づくり支援による授業改善の推進

主体的・対話的で「深い学び」を実現し、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指した授業実践を推進するため、県指導主事が、授業づくりのサポートを行い、校内研修や地区内研修等で実践例の共有を図る。また、小学校での学びを意識した言語活動を行うための単元指導計画を作成・実践できるような授業づくりの推進や、ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を図る。

②外国語指導助手(ALT)の活用推進

県内勤務のALT対象研修において、ALTならではの強みを活かした指導やパフォーマンステストへの参画についてテーマを設定する。また、経験豊富なALTの授業実践を動画研修等で広く共有し、県内中学校での授業改善に努める。

令和7年度 福井県 英語教育改善プラン

学習到達目標・単元目標達成のための言語活動を効果的に取り入れた授業づくりの推進および「指導と評価の一体化」の更なる充実

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 61.2%、B1以上 31.6% ⇒ R7 : A2以上 62.0%、B1以上 32.0%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が増加
(R5:40.8%⇒R6:79.0%)
- ②スピーキングテスト・ライティングテスト両方実施した割合
(参考 : R6 71.3%)
- ①「その他の専門学科」の授業における、生徒の英語による言語活動時間(50%以上)の割合
(参考 : R6 69.4%)
- ②授業における、英語担当教員の英語使用状況の割合
(参考 : R6:43.9%)

2. 要因分析

- ①指導主事訪問等を通して、単元計画設定の重要性について指導・助言を実施し、各学校が単元目標達成のための言語活動を取り入れた授業改善に取り組んだ。
- ②「ふるさとツーリズム英会話検定」(専門高校対象)を継続的に実施。研修会や指導主事訪問において、評価の意義を考える機会を設け、各学校が指導と評価の一体化の考えに立った授業を展開するようになっている。
- ①②言語活動を取り入れた授業改善は少しずつ進んでいるが、「授業を実際のコミュニケーションの場とする」、「教科書で教える」という意識が不十分なところが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②ディベート活動の推進
県内で5回程度研修会を開催し、各学校で「論理・表現」の科目等でディベート活動を実践できるよう支援。
- ②「英語力向上事業」の継続
専門高校を対象とした県独自の英語検定「ふるさとツーリズム英会話検定」を継続して実施
- ①②①②AI等を活用した研究推進事業(新規事業)
研究推進校にて生成AIやAIアプリ等活用した授業実践を通して、生徒の発信力の育成を図る。
(1)「次世代の授業に向けた先進的な学び研究推進事業」
…生成AI等を活用した授業の研究実践
(2)「タブレット活用推進事業」
…英語AIアプリの活用の検証
- ☐ グローバルに活躍することが期待される層の拡充に向けて
グローバル人材育成事業(新規事業)
福井県立高等学校横断型の高校生サークル「ふくいグローバルサークル(FGC)」を創設。(サマーキャンプ開催、グローバル企業交流会、福井大学グローバル人材育成センターや国際交流協会と連携したイベント開催、留学説明会開催等)

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

福井県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55.0%	61.1%	62.0%	61.2%	63.0%		64.0%		65.0%		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	28.0%	29.1%	29.5%	31.6%	30.0%		31.0%		32.0%		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	65.0%	40.8%	65.0%	79.0%	65.0%		68.0%		70.0%		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	60.0%	74.1%	75.0%	71.3%	75.0%		75.0%		75.0%		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表(%)	90.0%	97.4%	98.0%		98.0%		100.0%		100.0%	
		達成状況の把握(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	92.0%	98.1%	95.0%	98.0%	95.0%		95.0%		95.0%		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	60.0%	43.1%	60.0%	43.9%	60.0%		60.0%		60.0%		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	87.0%	83.8%	87.0%	79.80%	87.0%		87.0%		87.0%		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90.0%	82.1%	90.0%		90.0%		90.0%		90.0%		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100%	100%	100%		100%		100%		100%		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表(%)	70.0%	75.3%	100%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握(%)	85.0%	73.9%	100%		100%		100%		100%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	66.0%	65.0%	66.0%	63.30%	66.0%		66.0%		66.0%		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	86.0%	73.9%	86.0%		86.0%		86.0%		86.0%		

			2023		2024		2025		2026		2027	
校種		指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	80.0%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表(%)	50.0%	47.8%	100%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握(%)	80.0%	70.1%	100%		100%		100%		100%	